

報道関係者各位

2013年3月7日
株式会社坂茂建築設計
大和リース株式会社

応急仮設住宅兼途上国低所得者向け住宅システムの 記者発表および展示会を開催します

この度、株式会社坂茂建築設計（東京都）と大和リース株式会社（大阪市）は、発展途上国低所得者向け住宅として途上国で製造し、日本などの被災地で応急仮設住宅となるシステムを開発しました。FRP※¹サンドイッチパネルを構造とした簡単に組み立てられるシステムで、実物大モックアップを展示し、記者発表会および一般展示会を開催いたします。

※1 FRP（Fiber Reinforced Plastics）：繊維強化プラスチック。

■ 発表会の概要

- 日 時： 2013年 4月9日（火）
- 場 所： アークヒルズ カラヤン広場（東京都港区赤坂 1-12-32/ アーク森ビル）
- スケジュール
 - 10：30 ～ 11：30 記者発表（アークヒルズカフェ）
 - ・ 建築家・京都造形芸術大学教授 坂 茂
 - ・ 大和リース株式会社 代表取締役社長 森田俊作
 - 11：30 ～ 13：00 メディア様向け内覧会
 - 13：30 ～ 20：00 一般公開および招待者内覧会

※一般公開：4月10日（水）も開催いたします。

■ 開発製品の概要

- 開発コンセプト
 - 国内の応急仮設住宅と、途上国の低所得者層向け住宅の基本構造・工法を共通化し相互供給を可能にした、「ローコスト」「短い工期」「容易な施工」といった特徴をもつ住宅の開発。
- 開発の要旨
 - 建築家と生産・施工企業が共同することによって 新たな供給の仕組みを構築。
 - 海外（途上国）の低所得層向け住宅と、日本国内の応急仮設住宅に対して主要構造部材を共通化することにより、互換性を確保しながら量的効果も期待。
 - 基本構造・工法を共通化し、新たな資材供給チャネルの構築、発展途上国での製造を想定し、量産効果、軽量効果を得られる「FRPサンドイッチパネル」（FRPでサンドイッチされた発泡ウレタン断熱材）を主部材とした。

■ 開発の経緯

日本の自然災害の被害は、東日本大震災の被災において死者約1万6千名^{※2}、約40万戸^{※3}の住宅が損壊し、約11万戸^{※4}の応急仮設住宅が必要となりました。政府中央防災会議の発表では、南海トラフ地震の発生により最大、死者約32万人^{※5}、建物倒壊約238万戸^{※6}が想定され、今までに経験したことがないような被害の可能性もあります。

このような大規模な災害に対して、現在の応急仮設住宅では供給の限界があり、「仮設住宅供給のダイバシティ（多様化）とアップグレード」が必要です。そこで、世界の被災地で多くの仮設建築を手掛ける建築家 坂 茂 と、災害時の応急仮設住宅を提供する大和リースが、「被災者へより優れた仮設住宅を敏速に届ける」ために協力することになりました。

また、途上国では劣悪な住環境や大規模な住宅需要を抱える国々も多く、これらの住宅問題の解決のために、安価な建設費で大量に供給・施工する仕組みが必要とされています。

そこで、平常時は、途上国を拠点として現地での低所得者向け住宅として供給することで現地の雇用を創出して運営し、日本などで大量の応急仮設住宅が必要となった際には当地での生産を応急仮設住宅向けへと切り替えて被災地へと供給するシステムを開発しました。

この度、関係各位および多くの方々へこれからの災害への対応と同時に、途上国への貢献策を知っていただく機会として、共同開発を行った住宅の実物大モックアップを展示し説明会を行うことと致しました。

※2※3 緊急災害対策本部発表「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について」 2013年1月29日時点。全壊128,914戸、半壊268,897戸。

※4 ●建設型応急仮設住宅 約53,309戸 国土交通省発表「応急仮設住宅 着工・完成状況」平成25年2月1日 ●民間賃貸住宅の借上げによる応急仮設住宅 約68,597戸 復興庁発表「民間賃貸住宅の借上げによる応急仮設住宅への入居者推移」最大値(平成24年4月11日)

※5※6 内閣府 中央防災会議発表「南海トラフ巨大地震の被害想定について(第一次報告)」平成24年8月29日 最大:死者 約323,000人、建物被害 全壊 約2,386,000棟

■ 開発製品仕様

- 工法: パネル式組立工法(主要部材4種類)
- 主要部材: 発泡ウレタンFRP サンドイッチパネル

【標準プラン】



■ 発表会場のごあんない



電車でのアクセス方法

- ・東京外環南北線「六本木一丁目駅」3番出口より徒歩1分
- ・東京外環銀座線「溜池山王駅」13番出口より徒歩1分
- ・東京外環日比谷線「神谷町駅」4番出口より徒歩8分

■ プロフィール

● 坂 茂 (ばん しげる)

1957年、東京都生まれ。建築家。

成蹊高校を卒業後、84年、ニューヨークの大学クーパー・ユニオン建築学部卒業。82年から83年磯崎新氏のアトリエに在籍。85年、東京で坂茂建築設計設立。89年、名古屋の世界デザイン博で初の「紙の建築」を手がける。95年～2000年国連難民高等弁務官事務所コンサルタント、2010年、仏ポンピドーセンター分館（メス市）完成。

阪神淡路大震災以後、トルコ、インド、スリランカ、中国（成都）、イタリア（ラクイラ）、ハイチで仮設住宅を建設。東日本大震災では、避難所の間仕切りや女川町コンテナ多層仮設住宅を建設。現在、東京、パリ、ニューヨークの事務所で世界各国での建築プロジェクトを進める傍ら、京都造形芸術大学で教鞭を執る。フランス芸術文化勲章など 受章歴多数。



Photo Hiroyuki Hirai

● 大和リース株式会社 (だいわりーず) 2013年2月1日現在

本社：大阪市中央区。大和ハウスグループ

代表者：代表取締役社長 森田俊作

資本金：21,768百万円 従業員数：2,055名

売上高：175,988百万円（2012年3月期）

主要事業：建築工事、仮設建築リース、商業施設建設・開発・賃貸、リース、環境・緑化事業

応急仮設住宅供給の実績：東日本大震災/5,848戸、阪神淡路大震災/8,790戸 他

社団法人 プレハブ建築協会会員

● 本件に関するお問い合わせ ●

坂茂建築設計 担当：原野 TEL：03-3324-6760

大和リース 広報販促室 担当：岸田/三野 TEL：06-6942-8068